

## 情 報 公 開 文 書

研究の名称	大学生における紙とデジタル機器による学習効果と眼精疲労の比較
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者 (所属・氏名)	疫学・健康政策学准教授 山田 正明
研究の概要	<p><b>【研究対象者】</b> 2022年4月に在籍の本学の学生で五福、杉谷キャンパスの学部生（1-4年生）</p> <p><b>【研究の目的・意義】</b> 2020年に始まったコロナ禍により、全ての大学でリモートでの対応が求められ、オンラインによる授業形態に移行しました。オンラインは感染のリスクが無い、授業の動画を繰り返し見ることができる、といった利点が主張される一方で、その学習効果に関する調査はコロナ禍の流行以降はほとんどされていません。2010年代中頃までデジタルスクリーンでの学習は紙に劣る“Screen Inferiority”の結果が多数報告されています。この現象が現在の学生にも認められるかの調査は今後の学習環境を考える上でも重要です。今回の調査にて、デジタル機器と紙での学習による効果の違い、そして眼精疲労の違いを明らかにすることを目的としています。</p> <p><b>【研究の方法】</b> オンラインによる質問調査です。過去（2022年4月から5月）に行ったアンケート結果を使用します。</p> <p><b>【研究期間】</b> 実施許可日 ~ 2028年3月31日</p> <p><b>【研究結果の公表の方法】</b> 学会、論文、新聞などです。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	個人を識別する情報はありません。 デジタル機器と紙での学習で次の4項目でどちらがよいかを評価します（5段階評価）。4項目は1, わかりやすさ、2 記憶、3, 集中、4 目の疲労。その他普段の生活習慣を質問する。他機関への情報の提供はありません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	国立大学法人富山大学 学長 齋藤 滋
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学学術研究部医学系 疫学・健康政策学准教授 山田 正明
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7270 FAX 076-434-5022 E-mail masaakit@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 疫学・健康政策学准教授 山田 正明</p>